



前号に続いて背中では教える話です。6年生と2年生の子ども、そして私(わたし)とであやまりに行った話。今年の出来事ではありませんので念のため。

家の敷地でボール遊びをしていたとかで、けっこうなけんまくで学校に苦情の電話があり、とりあえず3人であやまりに行きました。

「迷惑かけてすみません」

「ごめんなさい」

と、子どもたちとであやまってそれでおしまい。誰でも家まで来たら、それ以上に怒る人はめったにいませんからね。

で、ここから本題です。その6年の子がまたちょっとしたことを仕出かして、担任には『知らん』の一言で、私が聞いたら『ハイしました』と一。その若い担任は、

「なんで、正直に言わないのか！」

と、えらく怒り出して教室に走って行きました。

あ那时候担任自身が一緒にあやまり行っていれば、その子の態度もまたちがっていたのかもしれない。または一言「自分が行きます」、あるいは「一緒に行きます」と言えばよかったのに。それとも私が声をかければよかった？あやまりに行くのを知っていたのに、声をかけられるまで動かないというのもね…。

No Image

以上、自慢話でも若い教員に対する愚痴でもなんでもありません。

親と子、教師と児童のあり方って本当に難しいものです。気づきというかセンスというか、そんなものも必要かもしれません。『今までこれでやってきたから大丈夫』なんて思っていたらだめなのでしょうね。

No Image

私自身、今でも失敗の連続です。